



理事長「若い人たちが賛成してくれるのは嬉しいことです。私も大賛成。しかし、女性ばかりに良妻賢母を押し付けるのはいけませんね。建学の精神は明治時代のもの。解釈によっては、女性は何ごとも夫に従い、子どものためにはどんな犠牲もいとわないという意にも捉えられます。しかし、これからの時代はとういうよりもむしろ元来、男性も良夫賢父であるべきなのです。そう考えると、尚綱五ヶ条は男女を問わず、普遍的な精神を唱ったものと言えるでしょう。そこで私は、建学の精神に近代性を備えさせるためには、どうしたらいいのかを思案しているんですよ。」



小川「古い考え方だと思つていましたが、今のお話を聞いて変わりました。今の時代に合った、新しいスタイルの良妻賢母のあり方を見つけていけばいいですね。」

**先輩方が築かれた
伝統と歴史を大切にしたい
女子校ならではの
魅力ある学び舎づくりを**



ば、学年の枠を取り払った行事などを、意図的に開催するのでもいいかもしれない、と思います。」

小川「先輩方が築いてこられた伝統を大切にしながら、常に新しいことにチャレンジしていく学園です。学生たちが毎日勉強をしに行きたいと思えるような学園つて、いいですよ。」

吉田「生徒皆が、のびのびと楽しく学べる場であつて欲しいと思います。中学校は少人数で、現在も雰囲気はとても良いのですが、生徒数が増えれば、もつといろいろなことができるんじゃないかなと思つています。」

理事長「中学校の生徒数の問題は、私立の総合学園としての視

点から考えると、非常に大きな意味を持っています。中・高・大学の「一貫教育を行う中で、さまざまな職業選択ができるというのが総合学園の最大のメリットの一つだといえますが、残念ながら当学園は選択肢が限られているのが現状。改善すべき課題だと思つています。また、社会が複雑化するにつれ、一つの職業や資格に対しても高いレベルが要求されるようになるでしょう。短大の一部の学科を、資格取得を考慮した四年制に移行させる必要もあります。私個人としては、入学試験を廃止して、好奇心おう盛な、魅力ある人材が集まるような入学制度にした方がいいんじゃないかなと思つています。そして、先程も強調しましたが真の意味での「良妻賢母」が育つ学び舎となることを目指したいですね。皆さんが、卒業後も当学園の生徒であつたことを長く誇りに思つてもらえる場であり続けたいと思つています。今日はありがとうございました。」

女性が生き甲斐を見出せる 一貫教育が行える体制づくり

今年、尚綱学園5代目理事長として迎えた江口吾朗氏。氏が、これから着手しようと考えている21世紀の女子総合学園の姿とはどのようなものなのか、今後の展望を伺いました。



将来の尚綱学園の姿に、共通するキーワードは「革新と深化」でしょう。学びたい人に、学ぶ場を提供する、本当の意味での大学づくりのために、あらゆる分野を深く掘り下げ、日々新に進んでいくことが重要です。

そのために、まず着手したいのが、短期大学の一部を四年制化する。例えば、食物栄養専攻の卒業生は、就職率が高く、県下の栄養士の70%を占めています。しかし、四年制大学の卒業生に与えられる「管理栄養士」の資格を得るためには、実務経験が必要となります。今後、ま

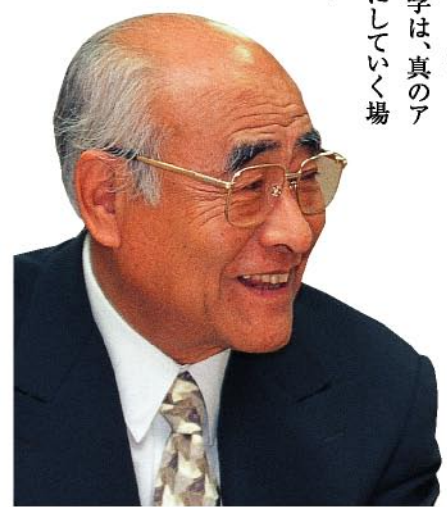
すまず求められるようになる高度な知識や専門性に、きちんと対応できる教育体制の整備を行いたいと思つています。家政科専攻科は、四年制化を見据えて設置されたものですし、社会的なニーズに応えるためにも、この専攻科を中核として、平成18年を念頭においた四年制化を目指しています。

中・長期的な目標としては、大学の改編です。総合学園として一貫教育を行えるという大学の最大のメリットは十分に活かされていません。現在、大学の学部は文学部のみ。英文学科と国文学科だけでは、選択肢が少ないと言わざるをえません。中学、高校と進学した生徒が、将来の選択肢に限りがあるからといって、同一学園の大学に進学できないのは、問題だと思つて

います。近代的で、社会に役立つ「良妻賢母」を育てるといふ、わが学園の目的、真の一貫教育のためにも、大学には学部、卒業後の進路において、多くの選択肢を備えたものにすべきでしょう。また、幼児教育の場の整備を進めることも大切です。

さらに、高齢者や本場に学びたいという地域の人たちが、若い学生たちと一緒に学ぶことができる体制づくりにも取りかかる予定です。大学は、真のアカデミズムを大切にしていく場であるべき。地域に

密着した、誰もが生き甲斐を見出すことができ、総合的な大学へと深化させたいと思つています。



尚綱学園理事長
尚綱大学・短期大学学長
江口 吾朗
【プロフィール】
昭和8年名古屋生。昭和31年名古屋大学理学部卒業。同大学理学部助手、京都大学理学部助教授を経て、同51年名古屋大学理学部教授。以降、国立基礎生物学研究所教授、総合研究大学院大学教授(併任)等歴任。平成8年11月～14年11月熊本大学学長。同15年1月尚綱学園理事長に就任し、同年4月から尚綱大学・短期大学学長を兼務、現在に至る。なお、同年9月独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー就任。